Book Review 書 評

□南雲 保，鈴木秀和，佐藤晋也：**珪藻観察図鑑** Tamotsu NAGUMO, Hidekazu SUZUKI and Shinya SATO: [Keiso Kansatsu Zukan] A5 版オールカラー．240 pp. 2018. 誠文堂新光社．¥3,000＋税. ISBN 978-4-416-51844-1.

章立て，写真の質，これまでに類を見ない図鑑です．12 あるコラムが珪藻の話題のツボを得ていて，この部分だけでも興味が湧きます．

珪藻は藻類の中で，「微生物」，「単細胞」，「プランクトン」，「その他の藻類」などと扱われていて，専門家以外注目されることの少ない生物でした．最近では，水界生態系の基礎生産における最重要生物として，またバイオエネルギー問題を解決してくれる藻類として注目を集めています．

珪藻は極めて精巧なガラスでできた殻（細胞壁）の構造があり，分類形質には事欠きません．そのこともあって種の数は 10 万にのぼるだろうと言われています．藻類のなかに，その造形美でアマチュア研究家や写真家に注目されている 2 つの群があります．ひとつは緑藻の「接合藻」で，ミカヅキモ，ツヅミモ，チリモの仲間です．もうひとつが珪藻です．ガラスの殻の上に美しい殻模様があります．ただ，分類には極めて微細な形質を用いることが多く，種の同定は難しいことだらけです．ガラスの殻の模様だけで種を決めていいのかとか，電子顕微鏡で見ないと種も同定できないとか，専門家以外手を出す人がいません．

海でも陸水でもプランクトンネットを引くと，珪藻が一番多く出現するのに，たいていの人はこれを無視するか，属の階級ぐらいでなんとかわかるものだけをリストアップすることが多い「厄介物」扱いです．私も学生を連れて藻類採集に出掛けるときは，「珪藻以外の藻類を重点的に採集してください」といっております．

珪藻の場合，種まで同定するのは難しいのですが，本書は生態型別に，池，湿原，湖，河川，海に分けて珪藻の種が挙げられていて，採集した場所がヒントとなって種類がわかる仕組みになっています．

本書ではすべての掲載種に学名が添えてあり，珪藻の種の同定の専門書としても十分に威力を発揮するものと思われます．

現在世界最高性能を持つ走査型電子顕微鏡を駆使しての高解像度の写真には恐れ入ります．また普通はゴミだらけの写真が多いのですが，ほとんどゴミのない綺麗な写真に仕上がっているのには驚きます．さらに，ガリウムイオンビームによる珪藻のガラスでできた細胞壁の断面の写真は，他書で見ることはなかったので見事としか言いようがありません．

最近巷でよく見かける「地球一美しい○○○の図鑑」に匹敵する美しい図鑑に仕上がっています．

ページ数の割に重いのが玉に瑕です．

（田中次郎 Jiro TANAKA）